

産業廃棄物処理計画書	
2024年 9月 25日	
名古屋市長 様	
提出者	
住 所 名古屋市名東区牧の里1-1310	
氏 名 有限会社 名建	
代表取締役 中村昭志	
(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 052-704-6521	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	有限会社 名建
事業場の所在地	名古屋市名東区牧の里一丁目1310番地
計画期間	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	07： その他の職別工事業
② 事業の規模	元請完成工事高：59,603,000円
③ 従業員数	14人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	がれき類→中間処理業者に委託して再生砕石として再資源化 ガラ陶→中間処理業社に委託して路盤材として再資源化又は埋立 廃プラスチック類→中間処理業者に委託して燃料として再資源化又は埋立 金属くず→中間処理業者に委託して有価物として売却 木くず→中間処理業者に委託して燃料等、再資源化 廃石膏ボード→中間処理業者へ委託し石膏原料として再資源化 混合物→中間、最終処分業者にいたくして埋立処分 石綿含有廃棄物→最終処分業者に委託して埋立

産業廃棄物処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

本社

工務部

工事部

現場担当者

協力業者

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（ 5 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙参照	
	排 出 量	t	t
	（これまでに実施した取組） 種類ごとに分別し、再生利用を行う処理業者へ品目ごとに処理委託をおこなう		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙参照	
	排 出 量	t	t
	（今後実施する予定の取組） 再生利用を行う処理業者へ搬入する		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） ガラ陶、廃プラスチック類、金属くず、紙くず、木くず、繊維くず、廃石膏ボード、混合物等に分別
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 上記品目を細分化し、混合物として搬出減らす

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 実施なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 実施予定なし		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 実施なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 実施予定なし		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋処分に関する事項

①現状	【前年度（ 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 実施予定なし		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再 生 利 用 業 者 へ の 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(これまでに実施した取組) 処分施設の確認		

(第5面)

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙参照	
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 処理施設確認の継続 処理委託品目の細分化		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙1

【前年度（5年度）実績】

	廃棄物の種類	がれき類	がれき類	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	廃プラスチック	がれき類	木くず	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	繊維くず	混合廃棄物	がれき類	廃プラスチック
	名称（任意の名称を記入してください）	コンガラ	アスガラ					廃石膏ボード			石綿含有廃棄物（がれき類）	石綿含有廃棄物（廃プラ）
①	排出量(t)	1084	66	34	13	39	331	7	5	113	2	
②	自ら再生利用を行った量(t)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
③	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量(t)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⑤	自ら熱回収を行った量(t)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⑦	自らの中間処理による減量(t)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⑩	処理委託した全量(t)	1084	66	34	13	39	331	7	5	113	2	
⑪	優良認定処理業者への処理委託量(t)	10	0	0	0	0	61	2	0	0	2	
⑫	再生利用業者への処理委託量(t)	1084	66	34	13	39	331	7	5	113	0	
⑬	認定熱回収業者への処理委託量(t)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
⑭	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量(t)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

【今年度(6年度)計画】

[illegible]